

銚子ジオパーク推進市民の会ニュース

連絡先

09089472869

銚子ジオパーク

推進協議会事務局

岩本 直哉

地球科学は、対象となる範囲が大きく、非常にダイナミックな学問です。それゆえ解明されていないことも多く、研究の進歩によって新しい解釈がされることも日常茶飯事です。そんな、地球科学をベースとしているジオパークでは、最新の学説を取り入れた活動が必要になってきます。今回は、銚子の地質に関して新しい知見をまとめ、皆様に紹介しました。ここでは勉強会の内容を簡単に紹介します。

・愛宕山層群は千葉県最古の地質体で、約1.5億年前に形成された付加体といわれています。最新の研究では約2.5〜1.3億年前の期間のどこかで形成されたことがわかりました。

・銚子層群は、銚子市東海岸で見ることのできる

地層です。これまで約1・3〜1・1億年前の地層といわれてきましたが、1・3〜1億年前の地層だということが新たに判明しました。この地層は恐竜の化石が発見される可能性のある地層です。

犬吠埼では、恐竜の足跡のようになくぼみが見られますが、堆積した環境で考えると、残念ながら犬

銚子の大地の歴史と特徴

吠埼で恐竜の足跡が見つかることはないでしょう。

・上記の地層は日本の大きな地層区分で「外帯」に属します。かつて「外帯」ははるか南で形成され、断層の運動により数千キロ北上したと考えられています。現在では、それほど北上していないという説で説明されることが多いようです。

・川口、黒生、長崎では安山岩という約2000万年前にマグマが冷えて固まった岩石を見ることが出来ます。川口の安山岩には「古銅輝石」という鉱物が多く含まれ「古銅輝石安山岩」と呼ばれます。この「古銅輝石安山岩」は日本列島では非常に珍しい岩石になります。黒生、長崎の安山岩は「古銅輝石」より「カラン石」の方が多く含まれているので正確には「カラン石安山岩」になります。川口、黒生、

とができます。これは銚子地域が局所的に隆起している証拠の一つになります。

・銚子の大地の特徴は局所的に隆起をしていることです。このため、周辺よりもはるかに古い地層を見ることが出来ます。この隆起は阿武隈隆起帯の延長に銚子が位置するためだと考えられています。銚子ジオパークの「こぶし」の部分はこの活動で隆起してきたと部分だと推測されます。

・長崎鼻には新第三紀鮮新統のサメ歯やクジラの化石が多く発見されています。この地層は化石から約500万年前の地層と推定されており、名洗層と呼ばれています。これまででは屏風ヶ浦の遊歩道で見ることが出来る地層と同じものと考えられていました。しかし、岩相などから別の地層と考える方が妥当でしょう。

・ポットタワーの下の崖は「夫婦ヶ鼻層」という地層です。この地層は約1700万年前に海で堆積した泥からなります。銚子の北北西約50kmの鹿島沖コア（水深38m）では深さ約700〜1100mに同じ地層を見るこ

とができます。これは銚子地域が局所的に隆起している証拠の一つになります。

・銚子の大地の特徴は局所的に隆起をしていることです。このため、周辺よりもはるかに古い地層を見ることが出来ます。この隆起は阿武隈隆起帯の延長に銚子が位置するためだと考えられています。銚子ジオパークの「こぶし」の部分はこの活動で隆起してきたと部分だと推測されます。

・長崎鼻には新第三紀鮮新統のサメ歯やクジラの化石が多く発見されています。この地層は化石から約500万年前の地層と推定されており、名洗層と呼ばれています。これまででは屏風ヶ浦の遊歩道で見ることが出来る地層と同じものと考えられていました。しかし、岩相などから別の地層と考える方が妥当でしょう。

・ポットタワーの下の崖は「夫婦ヶ鼻層」という地層です。この地層は約1700万年前に海で堆積した泥からなります。銚子の北北西約50kmの鹿島沖コア（水深38m）では深さ約700〜1100mに同じ地層を見るこ

うこととなります。

・下総台地はかつての海の底が隆起して高台になった台地で、千葉県に広く分布しています。下総台地の隆起は地域で異なっています。下総台地は銚子ジオパークの「うで」にあたります。

海の波で削れた海食崖です。下から「犬吠層群」「香取層」「関東ローム層」の大きく3つの地層に区分されます。以下に屏風ヶ浦で観察できる地層を解説します。

・「犬吠層群」は砂質の「名洗層」と深海で堆積した「春日層」「小浜層」「横根層」という地層からなり、約300〜90万年前に堆積したものです。「名洗層」に数多く観察できる断層は、崖面に自重でできた重力断層です。

・「香取層」は約200万年前の地層で、下総層群の木下層に相当します。現在、堆積年代が詳しく調べられており、結果の報告が待たれます。「香取層」の上部には陸域で堆積した「常総層」がのる場合もあります。

・関東ローム層は陸上で塵や火山灰が堆積し粘土化したものです。刑部岬（標高68m）の地下5・5mの関東ローム層から東京軽石という6・5〜6万年前に箱根火山が噴出した際の火山灰が見つかっています。つまり、少なくとも、6・5万年前には陸化していたとい

とができます。これは銚子地域が局所的に隆起している証拠の一つになります。

・銚子の大地の特徴は局所的に隆起をしていることです。このため、周辺よりもはるかに古い地層を見ることが出来ます。この隆起は阿武隈隆起帯の延長に銚子が位置するためだと考えられています。銚子ジオパークの「こぶし」の部分はこの活動で隆起してきたと部分だと推測されます。

・長崎鼻には新第三紀鮮新統のサメ歯やクジラの化石が多く発見されています。この地層は化石から約500万年前の地層と推定されており、名洗層と呼ばれています。これまででは屏風ヶ浦の遊歩道で見ることが出来る地層と同じものと考えられていました。しかし、岩相などから別の地層と考える方が妥当でしょう。

・ポットタワーの下の崖は「夫婦ヶ鼻層」という地層です。この地層は約1700万年前に海で堆積した泥からなります。銚子の北北西約50kmの鹿島沖コア（水深38m）では深さ約700〜1100mに同じ地層を見るこ

うこととなります。

・下総台地はかつての海の底が隆起して高台になった台地で、千葉県に広く分布しています。下総台地の隆起は地域で異なっています。下総台地は銚子ジオパークの「うで」にあたります。

以上のようなことは直接ガイドで話すことはないかもしれませんが、背景にある知識としてガイドして頂ければ、話に科学的な厚みが出てくると思います。また、これらの話の中にはまだまだ仮説もあります。さらに新たな知見があった時には再びこのような機会を頂きご報告していきたいと思えます。



黒生海岸のかんらん石安山岩